

2023年度

こども学科
講義計画集

— 第2学年 —

氏名

.....
船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051
.....

2023年度 (令和5年度) 年間計画表

1C (23C) 2C (22C) 3C (21C)

2023/3/23 現在

前期												後期														
4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月				
1 土		1 月	4月4回	1 木	木8回	1 土	↓	1 火	障害児保育	1 金	教育指針説明会	1 日	科目終末試験(予備)	1 水	2	2	2 金11回	1 月	元日	1 木	↑	1 金	科目終末試験(予備)			
2 日		2 火	木曜振替4回	2 金	金7回	2 日	1C科目終末試験	2 水	オープンキャンパス③	2 土	2	2	2 月	月3回	2 木	2	2 土	2 火	2 金	2 日	2	2	2 土	科目終末試験(予備)		
3 月	始業式・ガイダンス	3 水	憲法記念日 学校見学会(保護者)	3 土	2C科目終末試験 学校見学会	3 月	月13回	3 木	仕事の学び場(C)① 成績点要縮切	3 日		3 火	火4回	3 金	3	3	3 日	3 水	3 土	3 日	3	3	3 日	1C科目終末試験 学校見学会		
4 火	新入生ピアノ プレレッスン	4 木	みどりの日	4 日		4 火	火12回	4 金	仕事の学び場(CGF)①	4 月	英会話	4 水	水4回	4 土	4	4	4 月	4 木	4 日	4 火	4 金	4 日	4 月	4 月		
5 水	新入生 オリエンテーション	5 金	こどもの日	5 月	月9回	5 水	水12回	5 土		5 火	英会話	5 木	木4回	5 日	5	5	5 火	5 金	5 土	5 日	5 月	5 金	5 日	5 月	5 火	
6 木		6 土		6 火	火8回	6 木	木12回	6 日		6 水	↑	6 金	金4回	6 月	6	6	6 水	6 土	6 日	6 火	6 土	6 日	6 火	6 水	卒業判定会議	
7 金	入学式	7 日		7 水	水8回	7 金	金12回	7 月	仕事の学び場(UNW)②	7 土	↓	7 土	U・J・W・C入試日	7 火	7	7	7 木	7 日	7 水	7 土	7 日	7 水	7 土	7 日	7 水	卒業生登校日
8 土		8 月	月5回	8 木	木9回	8 土	↑	8 火	学校見学会	8 金		8 日	8	8	8	8	8 金	8 土	8 日	8 火	8 土	8 日	8 火	8 土	卒業式	
9 日		9 火	火4回	9 金	金8回 駅前C	9 日		9 水		9 土	↓	9 土	学校見学会(保護者)	9 月	9	9	9 土	9 日	9 火	9 土	9 日	9 火	9 土	9 日	9 火	
10 月	前期スタート 月1回	10 水	水4回	10 土		10 月	月14回	10 木		10 日		10 火	火5回	10 金	10	10	10 日	10 水	10 土	10 日	10 水	10 土	10 日	10 水	10 土	
11 火	火1回	11 木	木5回	11 日		11 火	火13回 試験問題原稿提出	11 金	↑	11 月	後期スタート 月1回	11 水	水5回	11 土	11	11	11 土	11 木	11 日	11 火	11 土	11 日	11 火	11 土	11 日	11 火
12 水	水1回	12 金	金4回	12 月	月10回	12 水	水13回 1C健康(指導法)	12 土		12 火	火1回	12 木	木5回	12 日	12	12	12 火	12 金	12 土	12 日	12 火	12 土	12 日	12 火	12 土	12 日
13 木	木1回	13 土		13 火	火9回	13 木	木13回 1C健康(指導法)	13 日	↓	13 水	水1回	13 金	金5回	13 月	13	13	13 水	13 土	13 日	13 火	13 土	13 日	13 火	13 土	13 日	13 火
14 金	金1回	14 日		14 水	水9回	14 金	金13回 研修合宿	14 月	↑	14 木	木1回	14 土	土	14 日	14	14	14 火	14 金	14 土	14 日	14 火	14 土	14 日	14 火	14 土	14 日
15 土	学校見学会	15 月	↑	15 木	オープンキャンパス①	15 土	土	15 火	学校見学会(保護者)	15 金	金1回	15 日	日	15 月	15	15	15 水	15 土	15 日	15 火	15 土	15 日	15 火	15 土	15 日	15 火
16 日	国家試験	16 火	↓	16 金	金9回	16 日	日	16 水	↑	16 土	土	16 日	日	16 月	16	16	16 水	16 土	16 日	16 火	16 土	16 日	16 火	16 土	16 日	16 火
17 月	月2回	17 水	水5回	17 土	学校見学会(保護者)	17 月	海の日	17 木		17 日	日	17 月	月	17 火	17	17	17 水	17 土	17 日	17 火	17 土	17 日	17 火	17 土	17 日	17 火
18 火	火2回	18 木	木6回	18 日		18 火	火14回	18 金		18 月	敬老の日	18 水	水6回	18 土	18	18	18 水	18 土	18 日	18 火	18 土	18 日	18 火	18 土	18 日	18 火
19 水	水2回	19 金	金5回	19 月	↑	19 水	水14回	19 土		19 火	火2回	19 木	木6回	19 日	19	19	19 水	19 土	19 日	19 火	19 土	19 日	19 火	19 土	19 日	19 火
20 木	木2回	20 土	土	20 火	火10回	20 木	木14回	20 日	↓	20 水	水2回	20 金	金6回	20 月	20	20	20 水	20 土	20 日	20 火	20 土	20 日	20 火	20 土	20 日	20 火
21 金	金2回	21 日		21 水	水10回	21 金	金14回	21 月		21 火	火2回	21 木	木2回	21 土	21	21	21 水	21 土	21 日	21 火	21 土	21 日	21 火	21 土	21 日	21 火
22 土		22 月	月7回	22 木	木10回	22 土	土	22 火	↑	22 日	日	22 月	月	22 火	22	22	22 水	22 土	22 日	22 火	22 土	22 日	22 火	22 土	22 日	22 火
23 日		23 火	火6回	23 金	金10回	23 日	日	23 水		23 土	土	23 月	月	23 火	23	23	23 水	23 土	23 日	23 火	23 土	23 日	23 火	23 土	23 日	23 火
24 月	月3回	24 水	水6回	24 土	土	24 月	月15回	24 木	↓	24 日	日	24 月	月	24 火	24	24	24 水	24 土	24 日	24 火	24 土	24 日	24 火	24 土	24 日	24 火
25 火	火3回	25 木	木7回	25 日	日	25 火	火	25 水		25 土	土	25 月	月	25 火	25	25	25 水	25 土	25 日	25 火	25 土	25 日	25 火	25 土	25 日	25 火
26 水	水3回	26 金	金6回	26 月	月12回	26 水	水	26 土		26 日	日	26 月	月	26 火	26	26	26 水	26 土	26 日	26 火	26 土	26 日	26 火	26 土	26 日	26 火
27 木	木3回	27 土	土	27 火	火11回	27 木	木	27 日		27 月	月	27 火	火	27 水	27	27	27 水	27 土	27 日	27 火	27 土	27 日	27 火	27 土	27 日	27 火
28 金	金3回	28 日		28 水	水11回	28 金	金	28 月		28 火	火	28 木	木	28 土	28	28	28 水	28 土	28 日	28 火	28 土	28 日	28 火	28 土	28 日	28 火
29 土	昭和の日	29 月	月8回	29 木	木11回	29 土	土	29 火	↑	29 日	日	29 月	月	29 火	29	29	29 水	29 土	29 日	29 火	29 土	29 日	29 火	29 土	29 日	29 火
30 日		30 火	火7回	30 金	金11回	30 日	日	30 水		30 土	土	30 月	月	30 火	30	30	30 水	30 土	30 日	30 火	30 土	30 日	30 火	30 土	30 日	30 火
		31 水	水7回			31 木	木	31 火	↓	31 日	日	31 月	月	31 火	31	31	31 水	31 土	31 日	31 火	31 土	31 日	31 火	31 土	31 日	31 火
																						※年間講義回数 火 31回 水 31回 木 31回 金 31回				

※台風など臨時休校が多い時は12月3週で対応

2学年

本校の教育方針	1
評価について／出欠席ルール	3
FJBネットID登録とメールアドレス	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4
個人情報保護に関する基本方針	5
教育目標と検定スケジュール	6
教育相談	杉山 剛	7
保育・教職実践演習	津田 聡子	8
幼児への特別な支援	津田 聡子	9
保育実習事前事後指導	津田 聡子	10
乳児保育演習	津田 聡子	11
音楽演習Ⅰ・Ⅱ	中川 菜穂・三田 麻矢佳・谷田 扶実子	12
保育原理	三田 麻矢佳・津田 聡子	14
音楽表現(指導法)	中川 菜穂・三田 麻矢佳	15
劇遊び(指導法)	中川 菜穂・三田 麻矢佳	16
乳幼児心理学	杉山 剛	17
保育の心理学	杉山 剛	18
子ども家庭福祉	津田 聡子・杉山 剛	19
子ども家庭支援論	津田 聡子・杉山 剛	20
障害児保育	杉山 剛	21
乳児保育	生越 雅志・津田 聡子	22
幼児と環境	生越 雅志	23
環境(指導法)	生越 雅志	24
幼児の造形表現	小倉 正巳	25
子どもの食と栄養	上原 尚子	26
子どもの保健	渡邊 寿代	27
一般教養Ⅰ・Ⅱ	青木 耕大	28
Office演習Ⅰ・Ⅱ	青木 耕大	30
検定対策Ⅰ・Ⅱ	青木 耕大	32

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居 高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいますからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるのでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され罰金の対象です

交通ルール

3号館前的大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にS～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

S	90以上	A	89～80	B	50～79
C	40～49	D	39以下		

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り科目の評価(S～Dの5段階)に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)

に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。

なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。

GPA = 【GP × 履修科目の単位数】の合計 / 履修科目の総単位数

実習(教育実習・保育所実習・施設実習)について

こども学科は幼稚園教諭二種免許と保育士免許の資格を同時に取得し、保育者として社会で活躍する専門職を養成する学科です。この専門職に就くためには他の教育・保育現場での実習が非常に重要になります。幼稚園実習2回・保育実習3回とも免許・資格の必修単位となります。(どちらか一方の取得は認められません)

学外実習は外部評価が基準になりますので、実習に行くまでの本人の学習内容が基準に満たない場合(基準単位未修得、人物評価等)は実習を実施できない事になります。

近畿大学九州短大スクーリングについて

1年次後期に近大スクーリングがあります。幼稚園教諭二種免許取得の必須単位となります。免許取得の意志がない場合、不参加となります。また、明らかな過失が認められる場合、旅費の負担が生じることがあります。

(詳細は別紙 → スクーリング詳細が決定次第、授業内でガイダンス)

出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
 - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」
 ※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
 - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する

- (1) 履修した全ての科目において単位修得していること
- (2) 原則として各年度において年間55日以上の欠席がないこと

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

(1) 科によってメールアドレスが設定されています。

詳細は担任から説明があります。

(2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

(3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。(スマートフォンでも使用可能)各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃(清掃時間を入り口に掲示)が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム(その他ソフト)をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。(卒業研究等、必要な場合を除く)

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやシャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導および就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (5) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (6) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	教育相談	分類	専門科目、必修科目
担当	杉山 剛		
テキスト (出版社)	子育て支援カウンセリング		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
幼児教育における教育相談の意義を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。
2. 授業の目標(検定取得など)
カウンセリングマインドの醸成
3. 注意点・要望
子どもの問題(虐待・不登校・いじめ等)や子育て支援をめぐるニュースなどにも日ごろから目を通し、「自分はどのように対処するか」常に考えてほしい
4. 関連科目
保育相談支援、相談援助、心理学関係科目

週	テーマ	内容
1	観察法について	幼児の心理理解のため、どのような点に注目して観察・記録を行う必要があるか
2	個別理解と集団理解	幼児を理解する視点について意識すべきポイント
3	養育困難のリスク要因	保護者、子ども、養育環境それぞれの立場から考える
4	不適応行動	不適応行動の種類とクラスや家庭環境を視点としてどのように理解すべきか
5	受容・共感的理解・傾聴	子どもや保護者の支援にどのように活用できるか
6	気になる子ども	発達障害の疑いのある幼児及びその保護者を支援する場合の進め方
7	連携外部機関	教育相談を展開する中で連携する外部機関と、その時に配慮すべき事項
8	保護者の精神疾患	精神疾患の種類と、その保護者について教師が留意すべき事項
9	園の体制	園の教育相談体制を整備するためにどのような工夫が有効か
10	カウンセリングスキル「質問」	閉じた質問と開かれた質問の長所と短所を捉える
11	保護者の育児不安要因	育児不安の要因をできるだけあげ、その支援に対して留意すべき事項
12	虐待	教育相談の視点から、保育者がすべき支援を考える
13	カウンセリングスキル「応答」	子どもや保護者の支援にどのように活用できるか
14	登園しぶり	具体的な行動、背景となる心理的要因
15	まとめ	科目終末試験対策

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	保育・教職実践演習	分類	専門科目、必修科目
担当	津田 聡子		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要									
保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する									
2. 授業の目標(検定取得など)									
上記に基づき、保育の課題について現状分析し、保育士・保育現場・地域社会それぞれに求められる対応を考察する力を習得する。自己の課題を明確化し、保育実践に必要な基礎的な資質・能力の定着を図る									
3. 注意点・要望									
保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき授業を進めます。実習ノート等を熟読し、参加してください。									
4. 関連科目									
幼稚園教諭・保育士科目全般									

週	テーマ	内容
1	学びの振り返り	保育士の意義や役割、職務内容、
2	学びの振り返り	子どもに対する責任、倫理
3	学びの振り返り	子ども理解と保育者の援助
4	学びの振り返り	子どもやその家庭の理解
5	学びの振り返り	子どもやその家庭の理解
6	学びの振り返り	職員間の連携
7	学びの振り返り	関係機関との連携
8	学びの振り返り	保育や子育て家庭に対する支援の展開
9	保育者に必要な資質能力	保育のねらいを踏まえた指導計画とは
10	保育者に必要な資質能力	保育のねらいを踏まえた指導計画の作成
11	保育者に必要な資質能力	保育のねらいを踏まえた指導計画の作成
12	保育者に必要な資質能力	保育のねらいを踏まえた指導計画の作成
13	保育者に必要な資質能力	作成した指導計画をもとに演習する
14	保育者に必要な資質能力	作成した指導計画をもとに演習する
15	保育者に必要な資質能力	作成した指導計画をもとに演習する
16	自己課題の把握	自身の習得した知識・技術等と保育に関する現代的課題等から、自己の課題を把握する

備考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
-----------	------------------------------------

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	幼児への特別な支援	分類	専門科目、必修科目
担当	津田 聡子		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解し、子どもを理解する上での基本的な考え方、具体的な方法を学ぶことにより、子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

2. 授業の目標(検定取得など)

子どもを理解する視点を学び、ひとり一人の発達に即した支援ができる基本的な力を養う。また、インクルーシブ保育の能力も養う

3. 注意点・要望

1年次に学んできた内容から、更に具体的な演習となる。自身の保育体系を探究してほしい

4. 関連科目

乳幼児心理学、発達心理学、障害児保育

週	テーマ	内容
1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握	保育における子どもの理解の意義 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり
3	子どもを理解する視点	子どもの生活や遊び 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 子ども相互の関わりと関係づくり 集団における経験と育ち
4	子どもを理解する視点	葛藤やつまずき 保育の環境の理解と構成 環境の変化や移行
5	子どもを理解する方法	観察 記録 省察・評価
6	子どもを理解する方法	職員間の対話 保護者との情報の共有
7	子どもの理解に基づく発達援助	発達の課題に応じた援助と関わり
8	子どもの理解に基づく発達援助	特別な配慮を要する子どもの理解と援助 発達の連続性と就学への支援
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

備考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	------------------------------------

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	保育実習事前事後指導	分類	専門科目、必修科目
担当	津田 聡子		
テキスト (出版社)	保育所保育指針		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育実習 I のための準備と、実習内容の質の向上のための学習
2. 授業の目標(検定取得など)
実習ノート作成 学外施設にて見学・観察時実習を行う 実習評価票
3. 注意点・要望
実習だからこそ学べることへの目標をしっかりと持ち望む
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	実習の目的と意義	実習の概要 自己評価にて自身を知ると共に実習生としての意識と責任を持つ
2	事前学習	子どもの人権 プライバシーについて 書類の種類を学ぶ
3	実習の流れ	保育所実習において決定から実習終了までを知る
4	マナー研修	服装、挨拶、言葉づかい、実習生の生活など、自身を取り巻く様々な心得を学ぶ
5	保育実習内容	保育所とは何かを学ぶ (保育所入所について、日課、職種等)
6	実習日誌について	目標、環境設定、記録、考察等の書き方 美しい字 筆圧、描写、表現の仕方等
7	オリエンテーションについて	オリエンテーションについて知る 見学・観察・部分・責任実習を知る
8	実習日誌を書く	子ども、保育者の様子を見ながら実習ノートを書くポイントの演習
9	立案演習	個々で様々な年齢の保育内容立案をする
10	学外実習演習	1階保育室にて保育演習後実習日誌を書く 実習、日誌指導をしていただく
11	学外実習演習	1階保育室にて保育演習後実習日誌を書く 実習、日誌指導をしていただく
12	学外実習演習	1階保育室にて保育演習後実習日誌を書く 実習、日誌指導をしていただく
13	実習先について 保育所	自身の実習先を熟知する
14	実習先について 保育所	自身の実習先を熟知する
15	実習先について 施設	自身の実習先を熟知する
16	お礼状 実習反省 次回実習にむけて	書式を学ぶ 自分の言葉で心あるお礼状を個々で作る

備考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	------------------------------------

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	乳児保育演習	分類	専門科目、必修科目
担当	津田 聡子		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
乳児保育の基本的な考え方を学ぶ。子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際を演習を通じて学び、具体的な保育方法を想像しながら実現できる力を育む。
2. 授業の目標(検定取得など)
3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり、配慮の実際等の基本的な考え方について学び、養護及び教育の一体性を踏まえ、生活や遊びと保育の方法及び環境について、乳児保育における計画の作成能力を身につける。
3. 注意点・要望
1階の保育現場での演習が多くなる。健康管理と問題意識をもつてのぞんでほしい
4. 関連科目
乳児科目全般

週	テーマ	内容
1	乳児保育の基本	子どもと保育士等との関係の重要性 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
2	乳児保育の基本	子どもの主体性の尊重と自己の育ち 子どもの体験と学びの芽生え
3	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際	子どもの1日の生活の流れと保育の環境 子どもの生活や遊びを支える環境の構成
4	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊びと援助の実際 子ども同士の関わりとその援助の実際
5	乳児保育における配慮の実際	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
6	乳児保育における配慮の実際	集団での生活における配慮 環境の変化や移行に対する配慮
7	乳児保育における計画の実際	長期的な指導計画と短期的な指導計画
8	乳児保育における計画の実際	個別的な指導計画と集団の指導計画
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

備考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	------------------------------------

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	音楽演習 I	分類	専門科目、必修科目
担当	中川 菜穂・三田 麻矢佳・谷田 扶実子		
テキスト (出版社)	バイエル 音楽ピアノ教本 ポケットいっぱいのおた		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	20%	0%	40%	20%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
ピアノ読譜と演奏の上達と共に子どもの歌の弾き歌いに重点を置く
2. 授業の目標(検定取得など)
バイエル82番 季節の歌弾き歌い マーチ
3. 注意点・要望
音彩の会にて指定された課題曲を合格することが実習要件の一つです
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ピアノ演奏法 春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
2	ピアノ演奏法 春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
3	ピアノ演奏法 春の歌弾き歌い	4月課題曲のマンスリーチェック
4	ピアノ演奏法 春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
5	ピアノ演奏法 春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
6	ピアノ演奏法 春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
7	ピアノ演奏法 夏の歌弾き歌い	5月課題曲のマンスリーチェック
8	ピアノ演奏法 夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
9	ピアノ演奏法 夏の歌弾き歌い	6月課題曲のマンスリーチェック
10	ピアノ演奏法 夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
11	ピアノ演奏法 夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
12	ピアノ演奏法 夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
13	ピアノ演奏法 夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
14	音彩の会組み立て	コンサートに向けて演奏を仕上げる
15	音彩の会	コンサートホールで演奏し音楽のもたらす美しい音色の空間をみんなで共感しあう

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	音楽演習Ⅱ	分類	専門科目、必修科目
担当	中川 菜穂・三田 麻矢佳・谷田 扶実子		
テキスト (出版社)	バイエル 音楽ピアノ教本 ポケットいっぱいのおた		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	20%	0%	40%	20%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要
ピアノ読譜と演奏の上達と共に子どもの歌の弾き歌いに重点を置く
2. 授業の目標(検定取得など)
バイエル100番 季節の歌弾き歌い
3. 注意点・要望
音彩の会にて指定された課題曲を合格することが実習要件の一つです
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ピアノ演奏法 秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
2	ピアノ演奏法 秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
3	ピアノ演奏法 秋の歌弾き歌い	9月課題曲のマンスリーチェック
4	ピアノ演奏法 秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
5	ピアノ演奏法 秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
6	ピアノ演奏法 秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
7	ピアノ演奏法 秋の歌弾き歌い	10月課題曲のマンスリーチェック
8	ピアノ演奏法 冬の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
9	ピアノ演奏法 冬の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
10	ピアノ演奏法 冬の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
11	ピアノ演奏法 冬の歌弾き歌い	11月課題曲のマンスリーチェック
12	ピアノ演奏法 冬の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
13	ピアノ演奏法 冬の歌弾き歌い	12月課題曲のマンスリーチェック
14	ピアノ演奏法 冬の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
15	様々な行事のデザイン	音楽を導入する行事の計画
16	音彩の会	コンサートホールで演奏し音楽のもたらす美しい音色の空間をみんなで共感しあう

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	保育原理	分類	専門科目、必修科目
担当	三田 麻矢佳・津田 聡子		
テキスト (出版社)	保育原理(近畿大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育の意義や保育者の専門性を理解する。様々な実技や実践を通して、保育に対する関心を深め自分なりの保育観を持てるようにする。
2. 授業の目標(検定取得など)
保育の基本を理解し、保育目標や内容・方法を考察できる。
3. 注意点・要望
授業課題を計画を立てて進めてほしい。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	保育の目的	幼稚園の保育目的と規定
2	保育の目的	保育所の保育目的と規定
3	保育の基本	保育者に求められる専門性
4	保育の内容	0～2歳ころの子どもの姿と保育の内容
5	保育の内容	0～2歳ころの子どもの姿と保育の内容
6	保育の内容	3～6歳ころの子どもの姿と保育の内容
7	保育の内容	3～6歳ころの子どもの姿と保育の内容
8	保育の方法	環境を通して行う保育、遊びを通じた総合的な指導
9	保育の計画	保育の全体的な計画と指導計画
10	保育の計画	指導計画の作成
11	保育の計画	指導計画の作成
12	保育の実践	自身の立てた指導計画をもとに保育を行う
13	保育の実践	自身の立てた指導計画をもとに保育を行う
14	保育の評価	自身の立てた指導計画をもとに振り返りをする
15	保育者の専門性	子どもと向き合う保育者の専門性

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	音楽表現(指導法)	分類	専門科目、必修科目
担当	中川 菜穂・三田 麻矢佳		
テキスト(出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	20%	50%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
保育における表現力を総合的に身につける
2. 授業の目標(検定取得など)
子ども達に音楽表現の楽しさを伝えるために、学生自身が表現することを楽しむ！
3. 注意点・要望
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	音楽表現とは何かを学ぶ	子どもの心を動かす表現とは 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿から学ぶ
2	表現ダンスの実践	子どもの「やってみたい」を引き出す表現ダンス1
3	表現ダンスの実践	子どもの「やってみたい」を引き出す表現ダンス2
4	表現ダンス応用	曲のイメージからの身体表現
5	表現ダンス応用	曲のイメージからの身体表現
6	表現ダンス応用	曲のイメージからの身体表現
7	会の組み立て	会の組み立てについて学ぶ 実践
8	発表	表現発表通して実践力を身につける
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	劇遊び(指導法)	分類	専門科目、必修科目
担当	中川 菜穂・三田 麻矢佳		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	20%	50%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要
歌・劇・造形などを通じた保育者としての総合的表現を養う
2. 授業の目標(検定取得など)
表現力を総合的に身につけること またその表現を子どもたちの前で発表し、反応を見ることで振り返りを行うこと
3. 注意点・要望
一人一人が役割を持ち、仲間と共に一つの作品を作り上げる
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	様々な表現方法を学ぶ	様々な表現方法を学んだ上でペープサートの特性と表現の仕方の理解
2	ペープサート組み立て	絵本から題材を選びイメージの共有 台本作り
3	ペープサート製作	一人一人が役割を持ちグループで一つの作品を作る
4	ペープサート製作	一人一人が役割を持ちグループで一つの作品を作る
5	音楽を取り入れた視覚的表現	音楽と視覚の連動の面白さ楽しさを知ると共に作品を完成させる
6	ペープサート演習	表現法を学びそれぞれが役になりきる
7	行事の組み立て	リハーサル 意見交換
8	ペープサート発表会	子どもたちを招き心を込めて演じる 反応を見て振り返りをする
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

備考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。
----	-------------------------------------

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	乳幼児心理学	分類	専門科目、必修科目
担当	杉山 剛		
テキスト (出版社)	乳幼児心理学(近畿大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。

2. 授業の目標(検定取得など)

家族・家庭の意義や機能から、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもだけでなく親も含めた支援の視点を学ぶ。

3. 注意点・要望

子育て家庭に関する現状と課題を理解し、そこから垣間見える子どもの精神保健と課題について考察できるようにしてほしい。

4. 関連科目

保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	生涯発達	乳幼児期から学童期前期にかけての発達
2	生涯発達	乳幼児期から学童期前期にかけての発達
3	生涯発達	乳幼児期から学童期前期にかけての発達
4	生涯発達	乳幼児期から学童期前期にかけての発達
5	生涯発達	学童期後期から青年期にかけての発達
6	生涯発達	成人期・老年期における発達
7	家族・家庭の理解	家族・家庭の意義と機能
8	家族・家庭の理解	親子関係・家族関係の理解
9	家族・家庭の理解	子育ての経験と親としての育ち
10	子育て家庭に関する現状と課題	子育てを取り巻く社会的状況
11	子育て家庭に関する現状と課題	ライフコースと仕事・子育て
12	子育て家庭に関する現状と課題	多様な家庭とその理解
13	子育て家庭に関する現状と課題	特別な配慮を要する家庭
14	子どもの精神保健とその課題	子どもの生活・生育環境とその影響
15	子どもの精神保健とその課題	子どもの心の健康に関わる問題

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	保育の心理学	分類	専門科目、必修科目
担当	杉山 剛		
テキスト (出版社)	発達心理学(近畿大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

保育実践に関わる発達理論等の心理的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。

2. 授業の目標(検定取得など)

子どもの発達過程(社会情動的発達・身体的機能・運動機能の発達・認知の発達・言語の発達)を習得する。乳幼児期の学びに関わる理論からその過程と特性をつかみ、子どもの学びを支える保育を具体的に実践できる基礎を養う。

3. 注意点・要望

子どもの発達過程を知ること、発達を捉える視点を養うことができる。具体的な事例をもとにレベルアップを図ってほしい。

4. 関連科目

保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	発達心理学の課題	発達心理学とは何か 発達研究のテーマ
2	発達を捉える視点	子どもの発達を理解することの意義
3	発達を捉える視点	子どもの発達と環境
4	発達を捉える視点	発達理論と子ども観・保育観
5	知的発達	感覚運動期から形式的操作期
6	知的発達	発達の階層的構造化
7	知的発達	記号と表象
8	環境と発達	発達研究の動向と先駆的研究 初期経験の影響
9	環境と発達	知能と環境
10	感情の発達	知・情・意の動き 内発的動機づけ 感情の種類 情動の種類と発達
11	子どもの発達過程	社会情動的発達
12	子どもの発達過程	身体的機能と運動機能の発達
13	子どもの発達過程	認知の発達
14	子どもの発達過程	言語の発達
15	子どもの学びと保育	乳幼児期の学びに関わる理論
16	子どもの学びと保育	乳幼児期の学びの過程と特性

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	子ども家庭福祉	分類	専門科目、必修科目
担当	津田 聡子・杉山 剛		
テキスト (出版社)	児童家庭福祉子どもと家庭を支援する(ミネルヴァ書房)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について学ぶ。
2. 授業の目標(検定取得など)
子どもの人権擁護に対する歴史の変遷、児童の権利に対する条約、現代社会における課題から、保育者としての子ども家庭福祉に求められる姿を探究する。子ども家庭福祉の制度と実施体系を基に、現状と課題について考える。
3. 注意点・要望
特に貧困家庭や学国籍の子どもとその家庭への対応をどのように行うか考察できる力をつけ、子ども家庭福祉の動向を保育者の視点で展望できるようになってほしい。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷	子ども家庭福祉の理念と概念、歴史の変遷、現代社会との関連性
2	子どもの人権擁護	子どもの人権擁護の歴史の変遷と現代社会における課題 児童の権利に関する条約
3	子ども家庭福祉の制度と実施体系	子ども家庭福祉の制度と法体系、実施体系
4	子ども家庭福祉の制度と実施体系	児童福祉施設 子ども家庭福祉の専門職
5	子ども家庭福祉の現状と課題	児童福祉施設
6	子ども家庭福祉の現状と課題	子ども家庭福祉の専門職
7	子ども家庭福祉の現状と課題	少子化と地域子育て支援
8	子ども家庭福祉の現状と課題	母子保健と子どもの健全育成
9	子ども家庭福祉の現状と課題	多様な保育ニーズへの対応
10	子ども家庭福祉の現状と課題	子ども虐待・DVとその防止
11	子ども家庭福祉の現状と課題	社会的養護
12	子ども家庭福祉の現状と課題	障害のある子どもへの対応
13	子ども家庭福祉の現状と課題	少年非行等への対応
14	子ども家庭福祉の現状と課題	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応
15	子ども家庭福祉の動向と展望	子ども家庭福祉の現在の動向と今後の展望

備考	
-----------	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	子ども家庭支援論	分類	専門科目、必修科目
担当	津田 聡子・杉山 剛		
テキスト (出版社)	児童家庭福祉子どもと家庭を支援する(ミネルヴァ書房)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
2. 授業の目標(検定取得など)
育者として専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について学び、保護者や地域への支援、保育士に求められる基本的態度を培う。子育て家庭に対する支援の体制を把握し、様々な施策や次世代育成支援施策を理解する。
3. 注意点・要望
子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、現状、課題について保育者の視点で展望できる力を養ってほしい。
4. 関連科目
社会福祉関係科目全般

週	テーマ	内容
1	子ども家庭支援の意義と役割	子ども家庭支援の意義と必要性
2	子ども家庭支援の意義と役割	子ども家庭支援の目的と機能
3	保育士による子ども家庭支援の意義と基本	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
4	保育士による子ども家庭支援の意義と基本	子どもの育ちの喜びの共有
5	保育士による子ども家庭支援の意義と基本	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
6	保育士による子ども家庭支援の意義と基本	保育士に求められる基本的態度(受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)
7	保育士による子ども家庭支援の意義と基本	家庭の状況に応じた支援
8	保育士による子ども家庭支援の意義と基本	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
9	子育て家庭に対する支援の体制	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
10	子育て家庭に対する支援の体制	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
11	多様な支援の展開と関係機関との連携	子ども家庭支援の内容と対象
12	多様な支援の展開と関係機関との連携	保育所等を利用する子どもの家庭への支援
13	多様な支援の展開と関係機関との連携	地域の子育て家庭への支援
14	多様な支援の展開と関係機関との連携	要保護児童等及びその家庭に対する支援
15	多様な支援の展開と関係機関との連携	子ども家庭支援に関する現状と課題
16	家庭支援のまとめ	自身の地域における家庭支援の現状把握

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	障害児保育	分類	専門科目、必修科目
担当	杉山 剛		
テキスト (出版社)	よくわかる障害児保育		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
 障害児保育を支える理念や歴史的変遷を学び、障害児及びその保育について理解し、個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮が実現できる力を養う。

2. 授業の目標(検定取得など)
 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解し、その現状と課題を踏まえながら保育方法を考える。またその家庭への支援や、関係機関との連携・協働について理解する。

3. 注意点・要望
 保育者として理想的な障害児保育とは何か、自身の見解を確立する

4. 関連科目
 保育士免許関連科目

週	テーマ	内容
1	障害児保育を支える理念	「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷 障害のある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本
2	障害児等の理解と保育における発達の援助	肢体不自由児の理解と援助
3	障害児等の理解と保育における発達の援助	知的障害児の理解と援助
4	障害児等の理解と保育における発達の援助	視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助
5	障害児等の理解と保育における発達の援助	発達障害児の理解と援助①(ADHD－注意欠陥多動性障害、LD－学習障害等)
6	障害児等の理解と保育における発達の援助	発達障害児の理解と援助②(PDD－広汎性発達障害等)
7	障害児等の理解と保育における発達の援助	重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助 その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助
8	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際	指導計画及び個別の支援計画の作成
9	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際	個々の発達を促す生活や遊びの環境
10	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際	子ども同士の関わりと育ち合い
11	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際	障害児保育における子どもの健康と安全
12	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際	職員間の連携・協働
13	家庭及び自治体・関係機関との連携	保護者や家族に対する理解と支援
14	家庭及び自治体・関係機関との連携	保護者間の交流や支え合いの意義とその支援
15	家庭及び自治体・関係機関との連携	障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関(保育所、児童発達支援センター等)の連携・協働 小学校等との連携

備考	
-----------	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	乳児保育	分類	専門科目、必修科目
担当	生越 雅志・津田 聡子		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	初めて学ぶ乳児保育		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割を踏まえ、保育所・乳児院等多様な保育の場における現状と課題について理解する。
2. 授業の目標(検定取得など)
3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し、適切な環境設定や援助の方法、具体的な配慮を実現できる基本的な力を養う。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
3. 注意点・要望
元保育士の先生方への積極的な質問を望む
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	乳児保育の意義・目的と役割	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷、役割と機能、養護及び教育
2	乳児保育の現状と課題	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
3	乳児保育の現状と課題	保育所における乳児保育
4	乳児保育の現状と課題	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育
5	乳児保育の現状と課題	家庭的保育等における乳児保育
6	乳児保育の現状と課題	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	3歳未満児の生活と環境
8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	3歳未満児の遊びと環境
9	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	3歳以上児の保育に移行する時期の保育
10	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
11	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮
12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	乳児保育における計画・記録・評価とその意義
13	乳児保育における連携・協働	職員間の連携・協働
14	乳児保育における連携・協働	保護者との連携・協働
15	乳児保育における連携・協働	自治体や地域の関係機関等との連携・協働
16	次年度の責任実習に向けて	講義で得た知識をもとに、どのような保育が求められているかまとめる

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	幼児と環境	分類	専門科目、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト (出版社)	保育内容「環境」(近畿大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	25%	0%	25%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
幼児教育の基本及び領域「環境」のねらい・内容・変遷について学習する。「環境にかかわる力」の発達について学習する。保育の実践例を通して具体的生活体験を重視した保育指導力を養い、実践上の留意点を考慮した総合的な指導力を養う。
2. 授業の目標(検定取得など)
幼児教育の基本及び領域「環境」のねらいと内容を理解する。「環境とかかわる力」の発達について理解する。領域「環境」の変遷についての学習を通して、子どもの育ちにとって大切にされているものを知る
3. 注意点・要望
自然環境や社会環境などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導できる力を養ってほしい
4. 関連科目
五領域(指導法含む)科目全般

週	テーマ	内容
1	幼児と環境	保育の基本と保育内容 領域「環境」とは
2	幼児と環境	子どもの発達の見方・捉え方 「環境と関わる力」の発達
3	幼児と環境	保育環境のあり方と「環境と関わる力」の発達
4	幼児と環境	領域「環境」と保育内容
5	幼児と環境	保育者の役割・評価
6	幼児と環境	好奇心・探究心・思考力・物や生命・文字や数量と保育者の役割
7	幼児と環境	生活に関係の深い情報や施設に関心をもつには
8	幼児と環境	実践上の留意点
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	環境(指導法)	分類	専門科目、必修科目
担当	生越 雅志		
テキスト(出版社)	保育内容「環境」(近畿大学)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育演習内容「幼児と環境」の学習内容をふまえ、保育所保育指針における領域「環境」に示される内容を、各段階的に理解する。
2. 授業の目標(検定取得など)
現在の環境で子どもたちが生きる力を培うための保育の工夫、自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもたちの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導できる力を育む。
3. 注意点・要望
幼児と環境の授業を踏まえ、更に自然環境や社会環境などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもの自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に指導できる力を養ってほしい
4. 関連科目
五領域(指導法含む)科目全般

週	テーマ	内容
1	室内 室外の環境	室内外の環境と人への関連からの影響を学び、理想的な環境を考察する
2	人的環境 物的環境	人的、物的環境と人への関連からの影響を学、理想的な環境を考察する
3	発達にそくした環境(物的)	目的別玩具、道具・年齢別に分類する
4	発達にそくした環境(人的)	実際の保育現場にて観察実習を行いながら学習する
5	発達にそくした環境(人的)	実際の保育現場にて観察実習を行いながら学習する
6	安全な環境	1階の保育園 保育中の避難訓練参加
7	主体的な環境とは	主体的であるという事 具体的に学ぶ
8	主体的に遊ぶ環境	子どもの遊びから考える
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	幼児の造形表現	分類	専門科目、必修科目
担当	小倉 正巳		
テキスト (出版社)			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
 児童期までに経験させたい道具の使い方を知り、作品作りの楽しさを自らが体得するために個・共同で作品を作っていく。また作品を作りながら自由な表現の楽しさを感じられるようにしていく。

2. 授業の目標(検定取得など)
 保育現場を想像しながら、発達をふまえた上で作品作りを進め、年齢に合った作品作りを設定できるように学習を進めていく

3. 注意点・要望
 造形表現で学んだ手法や子どもたちへ伝える時の基本的な考え方を中心において、作品作りに向かいましょう。

4. 関連科目
 造形表現(指導法)

週	テーマ	内容
1	年齢による道具の使い方	ハサミ・のり・セロテープ等の工作で使用する道具のおろし方を発達と共に学ぶ
2	季節の図画工作 春	年齢に合わせた様々なこいのぼり作りをする(乳児～個人～ 幼児～共同～)
3	季節の図画工作 春	誕生カード作り(手形とりやお祝いのメッセージなども入れて誕生カードをデザインする)
4	季節の図画工作 夏	色水遊び、フィンガーペインティング、ボディペインティング実践授業
5	季節の図画工作 夏	野菜の絵を絵の具やクレヨンを使って表現する。(筆を使った絵の具の技法を知る。紙の色の選び方を知る)
6	発達にそくした玩具	年齢を各自設定し、その児の発達を促す玩具作りをする
7	季節の図画工作 秋	油粘土、紙粘土を使ってテーマのあるものを作る(人間、動物などを作り、作品に題名をつける)
8	季節の図画工作 秋	様々な廃材を見立てておみせやさんごっこの品物を作ろう
9	季節の図画工作 秋	折り紙作品を作る。(組おりがみ、くみ紙) 折り方bookを作成する
10	季節の図画工作 秋	経験画(運動会、とびばこ、なわとび、ダンスなど)を描き、指導方法を学ぶ
11	季節の図画工作 冬	キャンドル作り:ろうそくより様々な素材を入れて独自の作品を作る 指導方法を学ぶ
12	季節の図画工作 冬	廃材や毛糸など様々な材料を使い立体的な鬼のおめんを作る
13	季節の図画工作 冬	様々な材料を使い子ども達が目で追って楽しめる独自のモビールを作る
14	季節の図画工作 冬	様々な技法や素材を使いもらってうれしい心のこもった年賀状作りをする
15	動く玩具作り	動く玩具:その不思議さ、子どもが見つめる表情やワクワク感をもてる作品作り
16	廃材を利用して手作り玩具を作る	廃材から自由な発想を持ち共同作品、または個人作品を作る こどもの自由な発想を引き出すような援助や環境構成声かけについて考える

備考 デザイン事務所における制作、フリーランスイラストレーターとしての活動経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	子どもの食と栄養	分類	専門科目、必修科目
担当	上原 尚子		
テキスト (出版社)	子どもの食と栄養(北大路書房)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

子どもの健康と食生活の意義について理解し、栄養に関する基本的な知識を習得する。

2. 授業の目標(検定取得など)

子どもの発育・発達と食生活について、各発達段階における心身の状況とそれに見合った食生活の基本的考え方を学ぶ。保育における食育の意義・目的と基本的考え方を理解し、家庭や各施設における食生活の現状と課題を把握する。

3. 注意点・要望

関連するガイドライン・データ等から特別な配慮を要する子どもへの対応もできるようになってほしい

4. 関連科目

発達、健康関連科目

週	テーマ	内容
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活 現状と課題
2	栄養に関する基本的知識	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
3	栄養に関する基本的知識	食事摂取基準と献立作成・調理の基本
4	子どもの発育・発達と食生活	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
5	子どもの発育・発達と食生活	幼児期の心身の発達と食生活
6	子どもの発育・発達と食生活	学童期の心身の発達と食生活 生涯発達と食生活
7	食育の基本と内容	保育における食育の意義・目的と基本的考え方
8	食育の基本と内容	食育の内容と計画及び評価
9	食育の基本と内容	食育のための環境
10	食育の基本と内容	地域の関係機関や職員間の連携
11	食育の基本と内容	食生活指導及び食を通じた保護者への支援
12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭における食事と栄養 児童福祉施設における食事と栄養
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの対応
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障害のある子どもへの対応

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	子どもの保健	分類	専門科目、必修科目
担当	渡邊 寿代		
テキスト (出版社)	よくわかる子どもの保健		
参考資料	その都度プリント配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
子どもの心身の健康と保健の意義を学び、子どもの身体的発育・発達と健康について理解する。子どもの心身の健康状態とその把握方法において、保育シーンにおけるフローチャートが浮かび、早期発見・適宜対応できる基礎を養う。
2. 授業の目標(検定取得など)
健康診断の方法や保護者との情報共有について具体例をもとにしながら実践力を培う。子どもの疾病予防と適切な対応について学び、子どもを守る保育者精神を育む。
3. 注意点・要望
レポートなどを通して学びを身につけてほしい
4. 関連科目
子どもの保健応用ⅠⅡ

週	テーマ	内容
1	子どもの心身の健康と保健の意義	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2	子どもの心身の健康と保健の意義	健康の概念と健康指標
3	子どもの心身の健康と保健の意義	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4	子どもの心身の健康と保健の意義	地域における保健活動と子ども虐待防止
5	子どもの心身の健康と保健の意義	身体発育及び運動機能の発達と保健
6	子どもの心身の健康と保健の意義	生理機能の発達と保健
7	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の観察
8	子どもの心身の健康状態とその把握	心身の不調等の早期発見
9	子どもの心身の健康状態とその把握	発育・発達の把握と健康診断
10	子どもの心身の健康状態とその把握	保護者との情報共有
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応	主な感染症とその対応
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応	主な事故や傷害時とその対応
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応	予防接種&SIDSについて
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応	アレルギー疾患(エピペン含む)
15	母子保健対策と保育	母子保健理論と保育所との連携
16	環境及び安全衛生管理①	保育環境整備と保健

備考	現在保育園で看護師として勤務しており、現場での実情も踏まえた実務的な知識を伝えたい。
----	--

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	一般教養 I	分類	教養科目、必修科目
担当	青木 耕大		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育者として必要な生活に関わる幅広い教養を身につける。
2. 授業の目標(検定取得など)
保育現場で活かせる知識・技術を身につける。
3. 注意点・要望
実践中心の授業になります。発表やグループワークなど積極的に取り組んでください。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	保育者としての豆知識「野草」	テーマについて情報を収集し、まとめる
2	〃	テーマについて発表する
3	保育者としての豆知識「昆虫」	テーマについて情報を収集し、まとめる
4	〃	テーマについて発表する
5	保育者としての豆知識「花」	テーマについて情報を収集し、まとめる
6	〃	テーマについて発表する
7	保育者としての豆知識「動物」	テーマについて情報を収集し、まとめる
8	〃	テーマについて発表する
9	保育者としての豆知識「野菜」	テーマについて情報を収集し、まとめる
10	〃	テーマについて発表する
11	バリアフリー・ユニバーサルデザイン①	バリアフリーとユニバーサルデザインの概要について
12	バリアフリー・ユニバーサルデザイン②	フィールドワークを通してバリアフリーとユニバーサルデザインを考える
13	知的財産権①	著作権を中心に保育者として必要な知識を身につける
14	知的財産権②	著作権を中心に保育者として必要な知識を身につける
15	救命講習	心肺蘇生、AEDの使用方法を実践を通して学ぶ

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	一般教養Ⅱ	分類	教養科目、必修科目
担当	青木 耕大		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
保育者として必要な幅広い教養を身につける。
2. 授業の目標(検定取得など)
時事問題に関心を持つとともに、小論文、集団討論などを通して実践力を身につける。
3. 注意点・要望
実践中心の授業になります。課題作成やグループワークなど積極的に取り組んでください。
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	小論文の書き方と集団討論の進め方
2	時事問題①	集団討論①
3	〃	小論文作成①
4	時事問題②	集団討論②
5	〃	小論文作成②
6	時事問題③	集団討論③
7	〃	小論文作成③
8	時事問題④	集団討論④
9	〃	小論文作成④
10	時事問題⑤	集団討論⑤
11	〃	小論文作成⑤
12	時事問題⑥	集団討論⑥
13	〃	小論文作成⑥
14	時事問題⑦	集団討論⑦
15	〃	小論文作成⑦
16	まとめ	これまでの振り返り

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	Office演習 I	分類	教養科目、必修科目
担当	青木 耕大		
テキスト (出版社)	よくわかるマスターMOS Excel365&2019 (FOM出版)		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	20%	0%	50%	30%	100%		

1. 授業の概要

Microsoft Office Specialist Excel365 & 2019の受験を通し、Excelの基本的な操作方法を習得する

2. 授業の目標(検定取得など)

Microsoft Office Specialist Excel365 & 2019

3. 注意点・要望

必ずテキストを持参すること

4. 関連科目

検定対策 I

週	テーマ	内容
1	ワークシートやブックの作成と管理	ワークシートやブックを作成する・シート内の移動や書式設定 シートのオプションと表示のカスタマイズ・シートの印刷
2	セルやセル範囲の作成	セルやセル範囲にデータを挿入する・セルの書式設定 セルの並べ替えとグループ化
3	テーブルの作成	テーブルを作成、変更する レコードの抽出と並べ替え
4	数式や関数の応用	数式を使用する
5		関数を使用する SUM関数 AVERAGE関数 MIN関数 MAX関数 COUNT関数 COUNTBLANK関数
6		関数で条件付き論理を使用する SUMIF関数 AVERAGEIF関数 COUNTIF関数
7		文字列操作関数を使用する UPPER関数 LOWER関数 LEN関数 LEFT関数 RIGHT関数 MID関数
8		文字列操作関数を使用する CONCAT関数 TEXTJOIN関数
9	グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する
10		オブジェクトを作成する
11	模擬問題 CD演習	模擬問題CD演習
12	↓	↓
13		
14		
15	↓	↓

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	Office演習Ⅱ	分類	教養科目、必修科目
担当	青木 耕大		
テキスト (出版社)	よくわかるマスターMOS Word365&2019 (FOM出版)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	20%	0%	50%	30%	100%		

1. 授業の概要

Microsoft Office Specialist Word365 & 2019の受験を通し、Wordの基本的な操作方法を習得する

2. 授業の目標(検定取得など)

Microsoft Office Specialist Word365 & 2019

3. 注意点・要望

必ずテキストを持参すること

4. 関連科目

検定対策Ⅱ

週	テーマ	内容
1	文書の作成と管理	文書を作成する・文書内を移動する・文書を書式設定する
2		文書のオプションと表示をカスタマイズする 印刷または保存するために文書を設定する
3	文字、段落、セクションの書式設定	文字列や段落を挿入する 文字列や段落を書式設定する
4		文字列や段落を並べ替える、グループ化する
5	表やリストの作成	表を作成する 表を変更する
6		リストを作成する、変更する
7	参考資料の適用	文末脚注、脚注、引用文献を作成する
8		図表番号を作成する
9	オブジェクトの挿入と書式設定	文書パーツを挿入する、書式設定する 画像を挿入する、書式設定する
10		図形やSmartArtを挿入する、書式設定する
11	模擬問題 CD演習	模擬問題CD演習
12		
13		
14		
15		
16		

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	検定対策 I	分類	教養科目、必修科目
担当	青木 耕大		
テキスト (出版社)	よくわかるマスターMOS Excel365&2019 (FOM出版)		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	20%	0%	50%	30%	100%		

1. 授業の概要

Microsoft Office Specialist Exce365 & I2019の受験を通し、Excelの基本的な操作方法を習得する

2. 授業の目標(検定取得など)

Microsoft Office Specialist Exce365 & I2019の検定の取得

3. 注意点・要望

内容はOffice演習 I に準ずる

4. 関連科目

Office演習 I

週	テーマ	内容
1	検定対策	検定対策 (Office演習 I に準ずる)
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	↓	↓

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	検定対策Ⅱ	分類	教養科目、必修科目
担当	青木 耕大		
テキスト (出版社)	よくわかるマスターMOS Word365&2019 (FOM出版)		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	20%	0%	50%	30%	100%		

1. 授業の概要

Microsoft Office Specialist Word365 & 2019の受験を通し、Wordの基本的な操作方法を習得する

2. 授業の目標(検定取得など)

Microsoft Office Specialist Word365 & 2019

3. 注意点・要望

必ずテキストを持参すること

4. 関連科目

Office演習Ⅱ

週	テーマ	内容
1	検定対策	検定対策 (Office演習Ⅱに準ずる)
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【前期】

科目	やってみなはれ演習応用 I	分類	教養科目、必修科目
担当	中川 菜穂		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
机上では学べないものを、自らの体験を通して学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
保育現場で活かせるスキルの習得を目指し、記録に残す
3. 注意点・要望
体験したものは、体験シートにまとめ提出のこと。評価の対象となります。天候などにより一部内容が変わる場合があります
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	新入生歓迎会企画	企画内容を考える
2	新入生歓迎会企画	企画内容を考える
3	新入生歓迎会	1年生が安心して学校生活をスタートできるように歓迎会を行う
4	施設実習報告会	3年生から施設実習の報告を聞き施設実習のイメージを持つ
5	ごみひろい	船橋市内の清掃活動をおこなう
6	音楽発表衣装づくり	音楽発表に向けての衣装づくりを学ぶ
7	音楽発表衣装づくり	音楽発表に向けての衣装づくりを学ぶ
8	音楽発表衣装づくり	音楽発表に向けての衣装づくりを学ぶ
9	実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
10	実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
11	研修合宿準備	概要 係決め 内容把握
12	研修合宿準備	グループ活動
13	夏見台幼稚園音楽発表練習	音楽発表に向けて準備を進める
14	夏見台幼稚園音楽発表練習	音楽発表に向けて準備を進める
15	夏見台幼稚園音楽発表練習	音楽発表に向けて準備を進める

備考	
----	--

こども学科	2年
-------	----

【後期】

科目	やってみなはれ演習応用Ⅱ	分類	教養科目、必修科目
担当	中川 菜穂		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要
机上では学べないものを、自らの体験を通して学ぶ
2. 授業の目標(検定取得など)
保育現場で活かせるスキルの習得を目指し、記録に残す
3. 注意点・要望
体験したものは、体験シートにまとめ提出のこと。評価の対象となります。天候などにより一部内容が変わる場合があります
4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
2	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
3	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
4	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
5	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
6	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
7	若幸祭	
8	若幸祭反省	全体で話し合い反省をまとめる
9	保育実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
10	保育実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
11	3年生を送る会・卒園式の企画	内容を考える 担当決め
12	3年生を送る会・卒園式の企画	内容を考える 担当決め
13	施設実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
14	施設実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
15	3年生を送る会・卒園式の準備	製作物
16	3年生を送る会・卒園式の準備	製作物

備考	
----	--